緑化樹木の情報誌
緑化通信
2024 10月25日（年６回25日発行） 第507号

発行所
一般社団法人 日本植木協会
〒107-0052　東京都港区赤坂6-4-22　三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361　FAX.(03)3586-7577
URL：https://www.ueki.or.jp/　E-mail：honbu@ueki.or.jp
購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料　5,000円

ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C008422
環境に配慮するためFSC®森林認証紙を使用しています。

（一社）日本植木協会

令和6年度　都道府県別緑化樹木供給可能量調査　結果報告

（一財）日本緑化センター　理事　瀧　邦夫

調査結果の概要

2024年度の供給可能量は3,614万本となり、対2023年度比(3,665万本)98・6%と6年連続の減少となっている。形態別内訳は、グラウンドカバープランツ（GCP）が最も多く全体の5割弱（48・1%）、次にコンテナ樹木がおよそ2割強（22・5%）、3番目に低木常緑樹が2割弱（17・0%）の順となる（図―1）。露地栽培物のシェアー29・4%に対し、コンテナ栽培物のシェアーは70・6%、3対7を維持している。高中木本数の形態別内訳は、おおむね常緑広葉樹5、落葉広葉樹3、針葉樹2の割合を保っている。

主な形態について種類別の内訳をみると、GCPでは、タマリュウ323万鉢（GCP全体の19%）、シバザクラ類156万鉢（同9%）、コグマザサ102万鉢（同6%）、さらに、フイリヤブラン85万鉢（同5%）、リュウノヒゲ63万鉢（同4%）の順となる。

コンテナ樹木は、シャリンバイ39万鉢（コンテナ樹木全体の5%）、マホニア・コンフューサ25万鉢（同3%）、セイヨウベニカナメモチ23万鉢（同3%）、シラカシ20万鉢（同2・5%）、ハマヒサカキ16万鉢（同2%）が上位を占めている。

低木常緑樹ではサツキ208万本（低木常緑樹全体の34%）、オオムラサキツツジ103万本（同17%）、ヒラドツツジ77万本（同13%）、キンメツゲ29万本（同5%）、カンツバキ19万本（同3%）が上位5樹種を構成している。サツキは2018年度まで400万本台、19・20年度に300万本台、21年度より200万本台へ供給力を下げている。

なお、GCPのタマリュウは鉢径7・5㎝、5芽立の規格の他に、マット栽培による供給(露地7,980㎡、コンテナ25,000㎡)も行われている。

2024年度の総数は前年度に対し1・4ポイント減少となり、対2023年度比は露地物94・2%の減、コンテナ物100・6%の増となっている（図―2）。2024年度露地栽培物の対前年度比の内訳は、高木95・9%、低木93・3%であることから、主に低木の減産が全体の動きに影響している。

【需要の動向】

「建設工事施工統計調査」（国土交通省）によると、2022年度の造園工事完成工事高は5,354億円、前年度比22・3%と大幅な増加となっている。このうち、造園工事業種が元請で受注している金額は2,672億円とこちらも前年度に比べ9・6%増加している。元請比率は49・9%を占め、前年度に比べ5・8ポイント下がっている。

また、2022年度の元請完成工事高を発注者別にみると、公共は1,254億円（46・9%）、民間は1,418億円（53・1%）となり、民間の発注額が公共を6・2ポイント上回っている（図―3）。

なお、造園工事業を含む総合工事業8業種全体の完成工事高は前年度に比べ5・4%増となっていることから、造園工事業の完成工事高の増加が際立っている。

公共工事の全体的状況を、「公共工事前払金保証統計」（北海道・東日本・西日本建設業保証㈱）によって検討する。2023年度の件数は221,804件、前年度に比較し1・1%の減、請負金額は14兆7,405億円、前年度に比べ5・3%増となっている。発注者別では、市区町村が最も大きく件数で48・1%、請負金額で34・7%を占めている。2番目は都道府県が各々40・3%、29・2%となる。地域別には、関東のウェイトが大きく件数で22・1%、請負金額で26・2%を占める。造園植栽工事に結びつきの強い公園および道路工事の請負金額について、道路部門は3兆9,334億円、対前年度比102・5%と増加、公園部門は5,355億円、対前年度比104・2%とやはり増加している。

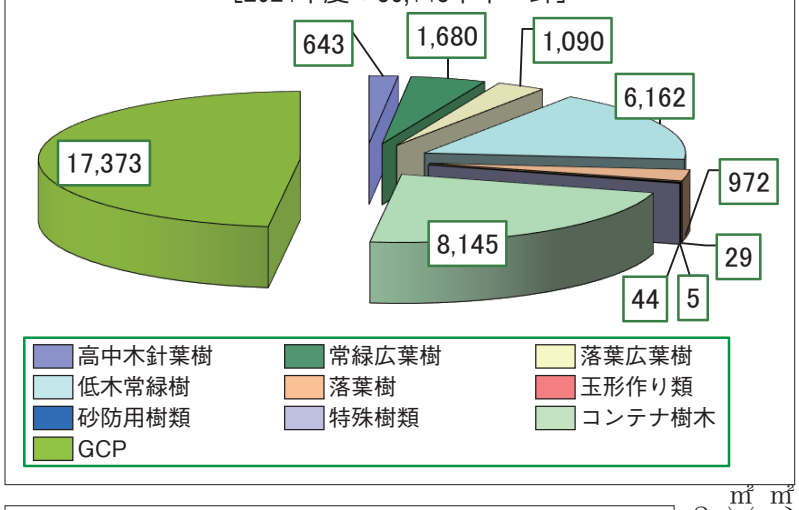
「全国屋上・壁面緑化施工実績調査」（国土交通省）によると、2022年に約15・6haの屋上、約4・4haの壁面が新たに緑化された。これまでの累積で、屋上は約597ha、壁面は約119haが整備された。建物用途別にみると、累積で屋上は住宅／共同住宅（116・4ha、19・6%）、商業施設（79・4ha、13・4%）、教育文化施設77・4ha、13・0%）が上位を占めている。壁面は商業施設（32・7ha、27・5%）、工場・倉庫・車庫(19・0ha,16・0%)、教育文化施設（12・7ha、10・7%）の順となる。

屋上緑化に使用される植栽材料の形態別累積面積をみると、セダムを主に植栽26・7%、芝生を主17・2%、その他草本10・4%などである。一方、壁面緑化の累計面積は、やはりツル性植物を主73・2%（86・4ha）、ツル性を除く草本を主8・2%（9・7ha）、ツル性を除く樹木を主4・2%（5・0ha）となる。

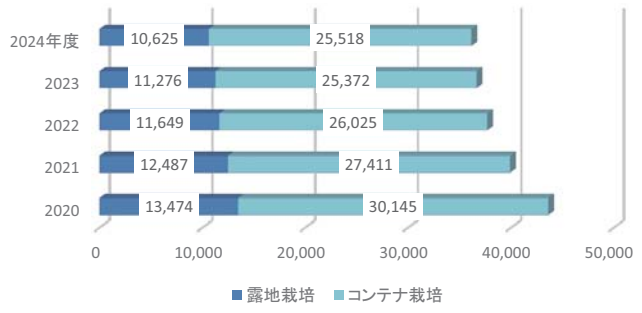
東京都は今年4月から都市開発諸制度を改定、ベイエリアの立体的な緑の整備を促す。緑化率を40%から50%に引上げ、算定にあたり、低層部のテラスなどに建物利用者が体感できる緑を設ける場合は緑化面積を割増する。道路、公園、水域など、公共的な空間に面する壁面等（高さ20mまで）の10%以上の緑化を義務付ける。脱炭素、景観に配慮する緑の充足が期待できる。

「建設工事受注動態統計調査（大手50社）」（国土交通省）をもとに、民間の建築・土木工事の動向を把握する。2023年度の受注高は12兆5,360億円、民間工事は、不動産業、運輸業、郵便業、鉱業、採石業、砂利採取業、建設業等が増え、3年連続で増加している。

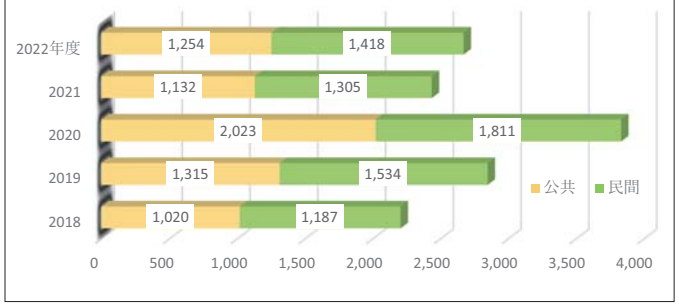
図―1　形態別の供給可能量（単位：千本・鉢）
[2024年度：36,143千本・鉢]



図―2　露地・コンテナ栽培の推移（単位：千本・鉢）



図―3　発注者別元請完成工事高の推移（単位：億円）



環境緑化樹木識別検定実施委員会

第16回環境緑化樹木識別検定資格認定委員会を開催

令和6年9月3日㈫、協会会議室において環境緑化樹木識別検定資格認定委員会が開催されました。この資格認定委員会は7月13日㈯に実施した樹木識別検定（100種の樹木について枝葉だけを見て正しい名前を答える検定）の点数に応じて級位を認定する委員会です。

会議冒頭の挨拶に立った高梨雅明委員長（(一社)公園緑地協会会長）は「地球温暖化、CO_2削減に効果のある緑化を促進するため、この識別検定は非常に有効です」と強調されました。

今年度で16回を数える環境緑化樹木識別検定は35名の方が受検され、造園会社、設計会社、官公庁、樹木医関係団体、学生と幅広い層の方々が参加されました。

受検平均点は64・9点で令和4年度に次ぐ高い平均点となりました。これは過去に受検された方が複数人再受検され、習熟度を上げられたことが一因と考えます。最高点は94点で㈱新松戸造園の戸村優太氏、サンコーコンサルタント㈱の松本啓吾氏が記録されました。

資格認定委員会の委員の方々

枝葉の特徴から正答を目指す樹木識別検定

史上最年少受検の岩邊陽義さん

今回の検定では最年少となる小学2年生の岩邊陽義（いわなべはるよし）さんが検定に挑まれたことが大きなトピックとなりました。岩邊さんは公園に落ちている松ぼっくりやドングリを見て、どの木から落ちているのだろうと興味を持ったことが始まりで、今では樹木全般に興味が広がっているようです。

級位認定協議が完了した後は、造園各団体の委員の方からこの樹木識別検定を啓発するためにどうすべきかについて活発な意見が出されました。主な意見として、(1)1級合格者を組織化して、人材育成を図る、(2)ビジネスにより展開できるよう、制度規程を整理し、資格の意義・効果を世間に訴求する、(3)特に設計コンサルタント業界とコラボし、研修会などを催すなどより密接な関係を築く等のアドバイスを頂きました。

環境緑化樹木識別検定実施委員会では頂いた意見を基に、資格の価値向上と活動の普及促進に向けて力を注いでまいる所存ですので、ご支援宜しくお願いします。

令和6年度 新樹種部会会員研修会 報告

研修委員会　研修委員長　眞鍋　憲太郎
（眞鍋庭園苗畑・北海道）

去る9月20日㈮・21日㈯の両日、令和6年度新樹種部会主催の研修会を大阪府南部と和歌山県の桃山エリアを巡るかたちで、新樹種部会員を対象に開催いたしました。

当日はクラクラするほどの好天（両日とも最高気温37度）にも恵まれ、部会員21名・その他協会員6名・賛助会員1名・事務局から1名という、計29名の参加で賑やかな研修となりました。

古川庭樹園圃場での集合写真

今回の目的地は大きく2エリア①大阪南部の部会研修としては訪れたことの無い会員農場の訪問②協会員のいない桃山の植木生産組合員の圃場視察でした。

開催当日は12時15分に新大阪駅南口に集合。12時30分に小回りの利くグランドハイエース2台とミニバンに分乗し出発。1件目の訪問先にて3台の関西生産者とも合流。大阪府堺市の杉田園様の暑さに強い新樹種を3か所見させていただき、参加者からの様々な質問に園主自らお答えいただき高評価を頂戴していました。2件目は、河内の古川庭樹園様へと移動し、圧巻の圃場を園主にご案内と説明いただきました。府内外の多くの造園屋が材料を求めて来る生産圃場では、今後を見据えた樹種選定と仕立て方を見せていただき、出荷場では多様なニーズに応える会もある協会員の圃場とは違った趣向があり、生産方法も土地に合った工夫がなされていた事に感心しきりでした。

桃山町植木組合の出荷場

今回の研修は他団体との交流もあったことから、事務局から1名の補助をいただきました。

品揃えを確認できました。

宿泊を伴う研修会でしたので、和歌山市内へ移動した後は翌日に訪問する桃山町植木組合の方々もお招きして賑々しく意見交換会を含めた懇親会を開催。前日に懇親会場が変更になるというトラブルもありましたが、無事交流を深めることができました。

翌朝は08時に和歌山駅東口を出発。桃山町植木組合の出荷場にて出荷サンプルを見せていただき担当職員4名による組合の体制や生産品目についてのお話を伺いました。

その後は、生産組合員の迷路のような畑を数か所ご案内いただきました。7台での移動ともなると信号待ちで離されたり迷いそうにもなりましたが、各車とライン通話で繋がって目的圃場の位置をGoogleMapで詳細に位置図を送り合いながら、無事に最終行程まで見学する事ができました。普段見せてもらう機会もある協会員の圃場と関西生産者のサポートカーも3台ご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

アンケートを配布しましたが、今後はアンケートの集計と考察をして会員の有益な研修会を来年度も計画してゆきたいと思います。お世話になった皆様に感謝の気持ちをお伝えすると共に、今後ともご協力ご参加の程よろしくお願いいたします。

杉田園 新しい樹種栽培に熱心な杉田高歳さん

古川庭樹園 時代を読む古川元一さんの説明

連載「植物園だより」

第１回 植物園の歴史と役割

しまだ ゆきこ
島田 有紀子

◆プロフィール
広島市植物公園勤務ののち、現在は大阪市の咲くやこの花館に勤務。大阪府立大学大学院農学生命科学研究科修了。博士（農学）。ペラルゴニウム属やベゴニア属などの鉢花や草花一般に造詣が深く、特に変わり葉ゼラニウム研究の第一人者。「NHK　趣味の園芸」の番組・テキストや、各地での講演など家庭園芸ファンへの普及に日々努めている。『NHK趣味の園芸　12か月栽培ナビDo 花苗をふやす タネまき・さし木・株分け』など著書多数。

新卒で広島市植物公園に就職し、現在は大阪市の咲くやこの花館と、四半世紀を超えて植物園に携わってきたため、植物園にはひとかたならぬ愛着があります。「植物園だより」の第１回目は、植物園の歴史と役割についてご紹介したいと思います。

植物園の起源については諸説ありますが、紀元前３世紀頃、世界最古で最大のアレクサンドリア図書館には薬草園が併設しており、植物ごとに分類して栽培されていたのが植物園のはじまりと言われています。ハーバリウム（標本庫）も備えていたそうです。

ライデン大学植物園
シーボルトを記念した日本庭園にあるシーボルト像

パリ植物園
敷地内には国立自然史博物館（写真奥）が併設されている

キュー植物園のパームハウス

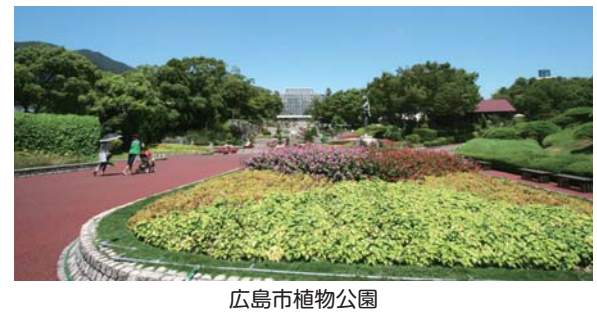
その後の植物園の歴史はヨーロッパが中心で、中世ヨーロッパの修道院は病気の治療が主な役割だったため、薬用植物を栽培するための薬草園をもち、植物の研究も行われていました。13世紀にはローマ法王ニコラウス３世によって大規模な薬草植物園としてバチカン植物園が造られました。

16世紀になると、有用植物だけでなく珍しい植物の収集や美しい花を咲かせる植物を集めた庭園としての植物園も誕生します。1545年に造られたイタリアのパドヴァ植物園は植物学研究のための植物園としては最古のものです。（1544年に創設されたイタリアのピサ植物園は1591年に移転。）その後も、オランダのライデン大学植物園、パリ植物園などヨーロッパの伝統的な植物園が開園しました。

ヨーロッパ人がアジア、アフリカ、アメリカ大陸などに航海した15世紀半ばから17世紀半ばの大航海時代にはプラントハンターによってそれまでヨーロッパでは知られていなかった植物が持ちこまれました。16世紀後半から17世紀にかけて、ガラスの生産技術の向上と暖房設備のある温室が設置され、熱帯地方から持ち帰った植物の栽培、繁殖が可能になりました。18世紀から19世紀になると、イギリスやオランダ、フランスなどヨーロッパの列強は熱帯のスパイスなど有用植物を巡って進出、衝突しました。やがて熱帯植物の栽培は熱帯地方で行うほうが効率的であることから、それぞれの植民地に植物園を造って、栽培や繁殖が行われました。イギリスはインドにカルカッタ植物園（現在のインド国立植物園）を、オランダはインドネシアにボゴール植物園を開設し、植民地経営の拠点としました。また、本国の植物園も植民地から収奪した富によって、イギリスのキュー植物園に代表されるような世界中の植物を集めた大植物園に発展していきました。

第２次世界大戦後、植民地は独立し、特権階級や国の政策のための植物園は庶民のための教養とレクリエーションを兼ね備えた文化施設として発展していきます。

一方、日本最古の植物園は「小石川植物園」の名称で親しまれる東京大学大学院理学系研究科附属植物園です。前身は貞享元年（1684）に徳川幕府が設けた「小石川御薬園（こいしかわおやくえん）」で、薬効のある植物を収集栽培するための研究施設でしたが、明治10年（1877）に東京大学の附属植物園となり一般にも公開されるようになりました。2023年春のNHK朝ドラ「らんまん」をご覧になった方は覚えていらっしゃると思いますが、牧野富太郎や松村任三（初代園長）といった日本の植物学の礎を築いた植物学者らが活躍した場所です。ちなみに「植物園」という呼称は福沢諭吉の『西洋事情・初編』（1866）が初見で、彼は幕末の文久遣欧使節としてヨーロッパを視察したときに、とりわけ温室に関心を抱いたようで、博物館の一つとして初めて日本に紹介されました。


広島市植物公園

咲くやこの花館（大阪市）

最後に、現代の植物園が果たす役割には、①植物の収集や栽培・保存、②植物に関する調査・研究、③植物に関する展示、教育と普及、④憩いの場の提供の４つがあげられます。現在は④の公園的要素やレクリエーション要素が色濃くなっている植物園が多い傾向にありますが、一方で環境破壊が問題視されている今日、生物多様性保全などの環境課題やSDGsなどの社会的課題などにも取り組んでいます。

日本列島植木植物園　ナショナルプランツ　コレクション※

ヒガンバナ

問い合わせ　川原田邦彦　確実園園芸場（茨城県）　☎029-872-0051

日本ではあまり好まれない種類です。毒があることも理由の一つでしょう。別名の曼珠沙華はいいのですが、死人花（シビトバナ）というものもあります。しかし、それを利用して、田んぼの畔などに植え、もぐら予防をしたり、また、江戸時代飢饉の時、球根の灰汁を抜いて食用にして、飢饉を乗り切ったことも知られています。中国原産で、以前は３倍体が日本には渡来しており、種子ができませんでしたが、近年種子のできるものが導入されています。

海外では人気が高く、育種で多くの品種が作出されており、日本でも育種されています。やや寒さに弱いものもあるので、植栽には注意が必要です。

近年、日本原産のキツネノカミソリ、オオキツネノカミソリ、ムジナノカミソリが注目されています。基本種のオレンジ色の花はもちろん、白花、八重咲等注目されています。

リコリス　スペラード

ヒガンバナ

ヒガンバナ‘黒法師’

リコリス　品種

オオキツネノカミソリ

オミナエシ

さつま美人

ショウキズイセン

スノーフェアリー

リコリス　インカルナータ

リコリス　オーレア

リコリス　スプレンゲリー

リコリス　スプレンゲリー

ナツズイセン

リコリス　ジャクソニア

リコリス　スペラード

リコリス　品種

リコリス　アルビフローラ

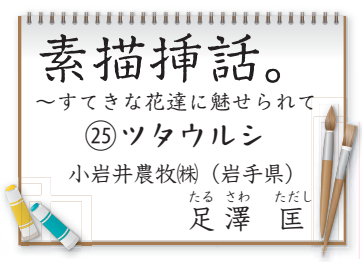
黒八重

真夏のクリスマス

エルジアエ

ヒガンバナ‘ピンク花’

※ナショナルプランツ　コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。



今回のスケッチは「ツタウルシ *Toxicodendron orientale*（*Rhus ambigua*）」。九州～北海道、日本全土に自生するウルシ科ウルシ属の落葉つる性植物で、接触すると皮膚がかぶれてしまう有毒物質を含んでいます。皆さんも一度はかぶれたことがあるのではないですか？「ヤマウルシ *Toxicodendron trichocarpum*（*Rhus trichocarpa*）」よりもかぶれるのではないかとも言われていますが、実際に比較してみたことがないので、分かりません。誰か調べてみませんか？ 私は皮膚が特に弱いので・・・無理です。漆（うるし）に強い人は、樹液を皮膚に付けてもかぶれないそうです。また、漆塗り職人は樹液を飲んで鍛える？　そうですが、全く信じられません。私は・・・無理です。それから、漆の樹液に含まれる有害物質（ウルシオール）は燃やしてもそのまま気化するみたいなので、注意が必要です。最近は、落葉焚きなどをする機会が無くなりましたが、湯気にも注意しなければいけません。

このスケッチは、三陸海岸の北側にある種差海岸に行った時に、紅葉が特に美しかったので、描きました。海が近いことのあり、葉が肉質で光沢があり、まるで常緑樹のようでした。以前、三陸海岸について書きましたが、大陸プレートの影響で陸地が海に落ち込んでいる地形のために、山地の植物が海岸際まで自生しています。このツタウルシも潮風の影響を受け、順化？ 変化？ 変異？しているのです。もっとよく観察しようと思いましたが、スケッチを描いているうちに身体中の皮膚が・・・無理でした。

ちなみに、ツタウルシは雌雄異株で、雌木は秋に、乳白色のしわのある小さな果実を数個着けますが、どうやって種子散布が行われていると思います？　実は、野鳥なのです。全然美味しく見えないし、かぶれそうじゃないですか。食べる果実が少なくなった冬に、ツグミが食べているところを偶然見ることが出来ました。かぶれている様子はありませんでしたが、鳥肌になっていると思います。きっと、そうだと思います。

また、ツタウルシの葉は、基本、三出複葉ですが、三裂の葉もあり、混ざったりもしますよね。千葉県のとある場所で見たツタウルシは、小葉５枚の羽状複葉でした。まるで、ヤマウルシが這っているようで、変異？ 親返り？ 雑種？ とても不思議だったので、枝を持ち帰りたかったのですが、皮膚の弱い私には・・・無理でした。

いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。

青年部会だより

中国・四国ブロック　研修会報告

青年部会　倉本政信
（㈱柏松園・広島県）

令和6年7月26日に福岡県にて、青年部会中四国ブロック研修会がおこなわれました。今回は、福島啓輔さん・久光泰輔さん・梶村建太さんにアテンドを頂き、福岡県の3社園と星野村を訪問しました。

㈱野口農園にて

㈲カジムラファーム

まずは、㈱筑紫植物園の圃場を案内していただきました。1本1本間隔を空けて仮植してあるので見やすいこともあり、会員からの質問も活発に行われていました。アオハダは枯れにくい工夫があると言われていたのが印象的でした。

星野村

次に㈱野口農園ではコンテナ圃場を案内していただきました。効率よく考えられた圃場整備をされていました。アスファルトの作業道では軽トラが往来でき、回転率の高さが感じられました。また、作業場では大きな木製の箱を手作りされ、8人同時に植替え等の手作業が行える工夫がされていました。

最後に、㈲カジムラファームでは圃場を案内していただきました。オリーブ生産の質と量に驚きました。生産をするうえでの苦労話や、ちょっとした工夫など、現場目線での話には、学ぶところがたくさんありました。

星野村では、おもにハイノキ・ソヨゴを視察しました。丁寧に作られた樹木は、どの木を持っていっても工事屋さんに喜ばれるような品質でした。

1日間の短い時間でしたが、訪れた圃場はどこもきれいに整備され、また、生産・管理技術の高さに感銘しました。ブロックの会員も今回の研修を通して、今後の各社園の事業の向上になれば幸いと思います。最後になりましたが、お忙しい中、当ブロック研修会の実現にご協力賜り、ありがとうございました。福岡県支部会員にあらためて、感謝申し上げます。

㈱筑紫植物園

学校紹介

～未来の業界を担う若者たち～
岐阜県立国際園芸アカデミー
マイスター科　造園緑化コース

職業園芸人を目指す人へ
花と緑の仕事、その喜びを共に

1．花と緑の学校

岐阜県立国際園芸アカデミーは2004年、岐阜県可児市に開学した学校教育法に基づく岐阜県立の専修学校で、実践的な学習を重視した独自のカリキュラムを編成しています。修業年限は2年間、総定員40名（1学年20名）のマイスター科には、花きの生産技術や、生産現場のマネージメント方法等について学ぶ「花き生産コース」、フラワーデザイン等の花き装飾技術や植物の管理方法等について学ぶ「花き装飾コース」、造園・緑化に関するデザイン、設計、施工管理技術等について学ぶ「造園緑化コース」の3つのコースがあります。

分業・分化が進む現代において、専門的な知識や技術だけでは十分でなく、より広く「花と緑」について学ぶ必要性があります。そのため、学生は1年次前期では幅広く各コースの授業を受講し、基礎となる「花と緑」の知識や技術を総合的、横断的に学びます。1年次後期からは専攻したコースの授業を履修しながら、次第に高度な専門性を取得します。例えば、花の生産者を目指し、花き生産コースを専攻する予定の学生でも、1年次前期はフラワーアレンジメントをつくり、庭園で植栽をします。

国際園芸アカデミー全景

花き生産コースの授業風景

2．各専攻コースの紹介

(1)花き生産コース　新しい価値を生み出す種をまく

花き生産コースでは、学生自ら栽培計画・圃場管理する実践的な研究課題に取り組むことで、課題解決能力を高めます。

(2)花き装飾コース　その花を語れるフローリストに

花き装飾コースの授業風景

(3)造園緑化コース　花と緑の造園空間の創造

造園（ランドスケープ）は主に植物や石材、木竹といった自然素材を使いながら、快適環境（アメニティ）を創造することです。庭園や公園、街路樹、屋上・壁面緑化、ビオトープ等といった造園空間は、人々に潤いと安らぎをもたらし、環境を改善します。造園緑化コースではこれら空間を設計、施工、管理・運営するための知識や技術、感性について学びます。

造園緑化コースの授業風景

3．インターンシップ

①職業意識を身につけるとともに、最新の知識・技能を習得する　②社会人、企業の一員としての心構え、マナーを体得する　③人的ネットワークを構築する　をねらいとして、本学はインターンシップを取り入れています。1年後期(必修)に10日間、2年前期(選択)に7日間、2年後期(必修)に15日間のインターンシップがあります。

4．県営公園内の実習フィールドと実践教育フィールド

近隣の県営公園であるぎふワールド・ローズガーデン内に国際園芸アカデミー実習フィールドと実践教育フィールドがあります。屋外の実習フィールドには花壇エリア、造園緑化エリア、園芸福祉エリアが、室内の実践教育フィールドには、展示販売スペース、研修室、更衣室・シャワーが整備されています。これらすべて国際園芸アカデミーのサテライト機能を有する施設として活用できるよう改修整備したものです。来園者にも楽しんで頂くと同時に、学生が育てた花等を展示・販売する等実践的に学ぶことができるフィールドです。

なお、造園緑化エリアでは、卒業研究・卒業制作においてグループで作庭をしています。平成30年から「里山」を全体のテーマとして、毎年、庭を拡張しています。昨年度の作品は「人と自然の共生」をテーマに石張りと囲炉裏をイメージした植栽桝を取り入れた設計・施工でした。学生が制作した作品が、公園に残り、来園者の目に触れるのは、学生にとって良い刺激になると思います。

技能五輪全国大会（造園職種）敢闘賞

5．学外の活動

昨年度開催された技能五輪全国大会では、学生がフラワー装飾と造園の職種に県代表として出場し、造園職種では敢闘賞を受賞しました。また、社会連携として企業や市町村との連携にも力を入れており、昨年度の卒業研究・卒業制作では、企業との連携として「生分解性ポット」の商品開発や、市町村との連携では「旧家庭園の改修計画」といったテーマを取り上げています。

ぎふワールド・ローズガーデンでの作庭実習

ルポ

シリーズ 社園さん紹介 No.25

㈱南阿蘇緑化

熊本県（阿蘇郡）

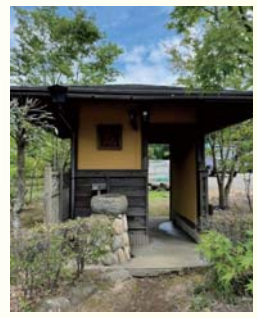
熊本平野部より平均気温が５度程低く、九州の北海道と言われている阿蘇で、適地適産として落葉樹を主に生産し、阿蘇の環境（気温・土壌 etc）では成長に時間が掛かる分、丈夫でしっかりとした根を持つ植木を生産している（株）南阿蘇緑化を紹介します。

上段左から竹内さん、林さん、社長の伯母みゆきさん、
下段左から廣石さん、甲斐さん、社長の白石匠さん、会長の白石公則さん、
社長の祖母三千代さん

シンボルツリーのケヤキの下で集合写真

社屋

圃場



お洒落なトイレ

匠さんの Instagram
約6400人フォロワー

会長の白石公則さん

社長の白石匠さん

どのような植木を生産しているのですか？

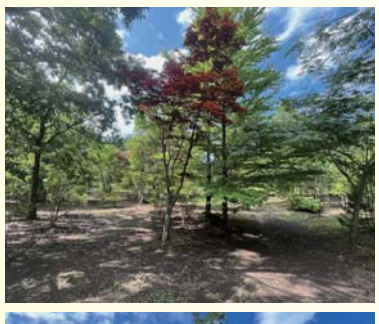
公則さん：「うちはケヤキ、サクラ、モミジ等の落葉高木を父の時代から生産しています。また最近はクヌギ、コナラ等の雑木類も多く生産しています。やはり昔から適地適産と言われているように、この辺は冬の寒さが厳しいので常緑樹は難しく、落葉樹の生産がメインです。九州の北海道と言われています」。

忙しい時期は？

匠さん：「11月～４月頃までは、仮植や出荷で忙しいので従業員さんを増やしますが、夏場の畑の管理を怠ると冬の仮植や出荷に支障が出るので、結局、一年中大変です（笑）。また、九州地方の一番の天敵は台風です。台風によって莫大な被害を及ぼすので、台風前には防風対策を徹底します。阿蘇の土は火山灰土で雨が降ると浸透性が良い為、土が柔らかくなり、さらに強風が吹くと植木が倒れやすくなります。例えば、サクラの苗木はほとんどが接ぎ木なので、その継ぎ目は折れやすいので、台風が近くなると畑に１列ごとにテープを張って、そのテープに１苗ごと誘引する作業も大変です。他の植木屋さんもやっているでしょうが、阿蘇の土は柔らかい分、しっかり対策を取っています」…相当な手間が掛かっているのですね。

森のような畑ですね。

公則さん：「そうなんです。最近は自然な樹形の植木がお客様から求められるので、息子に任せて私は口を出せなくなりました。私であれば伐採して処分するような樹形のものが、今の時代は主流で売れるようです。例えば３ｍも下枝が全くない物干し竿と呼ばれるような樹形や、曲がった樹形等も好まれるようです」。



自然樹形が多い植木畑

そのような樹形を作る方法があるのですか？

公則さん：「山採りの木のように、自然に任せているような植木ですが、ただ放っている訳ではなく、剪定や肥料等の肥培管理はちゃんとしています。個々の持つ特性を活かす木を作っているということです」…最近は人だけでなく、木に対しても個性を重要視しているのですね。

社園を営むうえでの課題は？

公則さん：「昔は、冬場になれば、農業をされている方が農閑期の折、10月～４月頃まで来てもらっていたのですが、現在は働き手の募集をしてもなかなか集まりません。真剣に外国人留学生の受け入れも視野に準備をしています」。

「植木協会のみならず業界として、後継者問題、人手不足、植木の値段が何十年も上がらないこと、害獣等、問題は山積みです」。

まずは後継者問題については？

公則さん：「どこの地域も植木屋さんは後継者不足です。私たちは、苗木を仕入れていますが、苗木屋さんも後継者不足で減少しているので、希望数の苗木を集めるのも大変です。昔から弊社では接ぎ木や挿し木等の苗木を作る技術は、他県に頼っています。植木屋さんには地域ごとの“持ち場、持ち場”というものがあるんです。まずは親が儲かる所を見せれば、どんどん後継者も続くでしょうがね（笑）」。

害獣問題については？

公則さん：「今は害獣の影響で、家庭菜園もろくに出来なくなってきています。樹木の芽や樹皮を剥き、特にイノシシは根元及び、圃場全体を掘り起こします。８年程前から電柵を20箇所使用せざるを得なくなってきました。電柵設置には下草も刈らなくてはいけないし、面積にもよりますが設置までに１機当り20万円前後の費用が掛かります。電柵設置に於いて私達の業界には助成金がないので協会で働きかけて欲しいです」…社園さんの所に伺うと色々な問題が見えてきます。

匠さんが後を継いだきっかけは？

匠さん：「最初は父より仕事を手伝ってくれんかい？と声が掛かり、軽い気持ちで始めたのがきっかけです。その後、植木協会に入会し、青年部会員で小学校での緑育出前授業に参加しました。その夜に懇親会があり、とても楽しかったです。また、近隣の㈲リョクシンの佐藤さんが、何も分からない私に注文してくれて色々教えて頂き、この青年部会の人達と頑張っていこうと決心しました。人の繋がりは大切だと思っています」。

薪も販売を伸ばしています。

将来については？

匠さん：「先ほど父が植木業界の色々な問題点を挙げていたように、問題は山積みですが、色々と発信して、少しでも植木協会や緑化業界に貢献していきたいです。せっかくこんなに面白い職業なのですから、自分なりに工夫して植木屋を続けていきたいです」。

お子さんは何歳ですか？将来の植木屋さんですかね？

匠さん：「４歳と１歳の男の子です。まだ小さいので土や木に触れたり、クワガタや虫を捕まえたり、今は自然と親しんでいるといった感じです。将来、植木屋さんを継ぎたい！と言うかもしれないので、それまでは頑張ってバトンタッチが出来るようにしたいです」。

子どもたちのお気に入りのミヤマクワガタ

趣味は？

匠さん：「高校野球を見るのが好きです。実は高校球児で甲子園を目指していました」。

公則さん：「もし、来年、母校が甲子園に行ったら見に行っていいよ！１週間でも10日でも仕事は俺に任せろ！」…よかったですね。

経理のみゆきさんにお聞きします。

みゆきさん：「経理事務を軽い気持ちで引き受けましたが、私が携わる前までは、植木の仕事もしながら経理もしていたかと思うと本当に大変だったのだろうと感じました」。

インタビュー時に出してくれた祖母 三千代さんのおもてなし。大ササの葉で巻いた手作りのちまきは、お醤油を付けて頂きました。美味しかったです。

従業員さんにお聞きしました。

廣石さん：「以前は花屋に勤めており、私は植物が好きで自然に触れながら働くことが自分には合っているようです。この広いフィールドの中で、仕事するのは気持ちよく、紅葉も楽しみです」。

甲斐さん：「私も中腰作業は大変でしたが、工夫することで改善出来ましたし、やはり緑に囲まれているのは体にもいいです」。

林さん：「私たちは緑や木のことはベテランだけど、今はこの公則会長を応援したいという気持ちと、若手の指導員として来ています」。

竹内さん：「コンクリート地面の東京は、こんな涼しい風は来ないだろう？木蔭はいいよ！」…私も本当に阿蘇の風は気持ちがいいと思いました。…１級造園施工管理技士の持ち主で趣味は磯釣りだそうです。

植生調査委員会

令和6年度　植生アドバイザー育成講座を開催

植生調査委員会委員　宍倉　聡一
（有）グリーンシシクラ・埼玉県）

桐の木平で植生調査するＡコース

川場村の畔草原を調査するＢコース

今回の植生アドバイザー育成講座は、台風が来ている中での開催となりましたが、沢山のご参加及び関係者の方々のご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

植生アドバイザー育成セミナーは平成15年から開催しており、新型コロナ禍で中止もありましたが、今年で足かけ21年の歳月を刻むことができています。

近年ではＳＤＧｓなど環境問題に世界的に注目が集まる中、人と自然の共生の価値観を創造できる人材育成を目標としているセミナーは緑化に対する時代のニーズに沿った講座となっております。

今年はＡコース9名　Ｂコース15名　Ｃコース8名の受講者が集まり、協会外からも設計会社から建設会社の方まで多くのご参加をいただきました。

各コースは野外実習をメインに、フィールドでの実地研修を通じて植生調査・植生復元など緑化に不可欠な技術及び知識を習得しています。

初日の夜にはバーベキューを行い、普段話す機会が少ない業種の方々と親睦を深めることで、受講者同士が一挙に親密度を増し、相互に情報交換するなど人的交流からも有意義なセミナーとなりました。

また、来年も充実した研修になるよう、植生調査委員会一同邁進してまいります。

台風にも負けず全員笑顔の集合写真

ヒロイド原旧新植栽地で復元検証を行うＣコース

令和７年度 協会総会のご案内

開催日　令和７年１月21日㈫
会　場　都市センターホテル（東京都）

令和７年度 コンテナ部会総会

開催日　令和７年１月22日㈬
会　場　都市センターホテル（東京都）

令和７年度 青年部会総会

開催日　令和７年２月６日㈭
会　場　日本青年館ホテル（東京都）

青年部会だより

青年部会全国研修会　沖縄研修

青年部会　幹事　山中　康太
（山中育樹園㈱・兵庫県）

9月10日、全国から会員が沖縄に集まり、植木協会青年部会全国研修会が開催されました。この研修では、沖縄の植栽事例や樹木生産の現場を訪問し、貴重な経験をすることができました。沖縄の自然環境や豊かな植物の多様性に触れ、普段の業務では得られない新たな視点や知識を吸収できた、大変有意義な機会となりました。

初日は沖縄の中部にある、「東南植物楽園」を訪問しました。ここでは本州では見かけない種類の様々なヤシや、南国特有の植物が豊富に展示され、その多様さに圧倒されました。広大な敷地に広がる植物の景観は見事で、特に大きな池の周囲を彩るランドスケープデザインが印象的でした。蓮が浮かぶ池からヤシが生えているように見える風景や、所々に点在する大きなナンヨウスギの存在感が素晴らしく、心を奪われました。こうした植物の配置やデザインは、大いに参考となり、今後の業務に活かせる多くの学びを得ることができました。

ユスラヤシの並木道は、植物園の名物で、壮大な並木が続く風景に圧倒されました。南国ならではの植物を間近で観察できる貴重な機会であり、業務の幅を広げるヒントを多く得ることができました。

夜には国際通りで懇親会が開かれました。三線の生演奏が流れる中、普段会うことの少ない全国の会員の皆様と交流を深め、植木業界の将来について語り合う場となりました。新たな出会いや意見交換もあり、業界全体をどう発展させるかについての議論が活発に行われ、有意義な時間を過ごすことができました。

研修2日目には、沖縄の今帰仁村地区の植木生産地を訪問しました。「やんばる緑花木」に集合し、近隣の生産農家を回り、沖縄での生産技術や植物の特徴について直接話を伺いました。特にテリハボクはバイオ燃料としても活用されており、実用的で景観にも役立つ植物とのことでした。また、ガジュマルやクロキといった沖縄の文化に根付いた植物を目にし、クロキが三線の柄の部分に使われることなど、植物と地域文化とのつながりを感じました。

さらに、ヤエヤマヤシやコバテイシなど、沖縄独特の希少な植物も見学しました。これらの植物は、沖縄の特有な気候条件に適応しており、本土とは異なる成長を見せていました。特に、ハマヒサカキは本土よりも大きく育っており、環境による成長の違いを実感しました。

今回の研修で得た知識と経験は、今後の業務に活かせると強く感じています。普段、私は植物販売と造園設計施工の業務を主に行っていますが、東南植物楽園での植栽配置や、生産者の方の話を基に、新たな庭の設計や施工に取り入れることができそうなアイデアを多く得ることができました。

これからも、今回の学びを大切にし、業界全体の発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。

東南植物楽園にて

日本列島植木植物園　ナショナルプランツ　コレクション※

ムラサキシキブ

問い合わせ　山﨑隆雄　㈱ワイズプランツ　（埼玉県）☎048-875-2155

おおよそ緑化樹でムラサキシキブとして流通しているものは、ほとんどがコムラサキであろうと思われます。ムラサキシキブは、最近でこそ認識されつつあるようですが、現場ではほとんど識別されてもいないようです。

そこで識別ポイントです。

ムラサキシキブの葉は比較的大型で、細かい鋸歯がほぼ全体にあり、葉の付け根に近いところに果実を付けます。一方、コムラサキの葉は小型で、先半分だけに鋸歯があり、果軸は葉の付け根より離れて付くので、わずかに隙間が空きます。

植木は、しばしば学術上では誤った「商品名」で販売されていることがあります。

植栽現場では、どちらでも見応え的に大きな問題が無くても、公園の樹名板や情報誌など公共的な混同は、見過ごしにはできません。

ムラサキシキブ

ムラサキシキブ

コムラサキ

コムラサキ

※ナショナルプランツ　コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

連載「多肉・珍奇植物」

第10回 ビザールプランツの最高峰、パキポディウム

東京都市大学環境学部教授　飯島 健太郎

◆プロフィール
東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医用工学部准教授を経て現職。博士（農学）。日本造園学会賞／研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書：『新しい都市緑化・ガーデニング材料／多肉植物』（ソフトサイエンス社）、『サボテン大好き』（講談社）、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』（主婦と生活社）、『サボテン全書』（監修、グラフィック社）、『多肉植物全書』（監修、グラフィック社）など。

ビザールプランツ人気で１位、２位を争うグループといえば、アガベやパキポディウムであり、しばしば関連書籍の表紙にも登場する。中でも独特の存在感で異彩を放っているのがパキポディウムであり、どっしりとした風格と滑稽な愛嬌を持ち合わせたような不思議な姿はマニアを強く惹きつけている（写真１）。

パキポディウムは、キョウチクトウ科パキポディウム（*Pachypodium*）属の総称であり、マダガスカルおよびアフリカを原産とする。葉や花の形態的特徴からキョウチクトウの仲間であることに頷ける。その姿から木本とする解説もあるが、幹の内部はスポンジ状で年輪は形成されないため多年草としている。園芸的には塊根植物のカテゴリーで紹介されるが、形態学的には塊茎が正しい。この塊茎部が著しく壺型に発達したものの代表が、パキポディウム・グラキリウス（*P. rosulatum* ssp. *gracilius*）であり最大の人気がある（写真２）。本種そのものがグッズ化されることもしばしばであり、その形態への愛着感に応えるべく商品化が試みられている（写真３）。

他のビザールプランツと同様にブルータスで取り上げられたことから注目されるようになったと考えられ、その後、栽培ノウハウ、オリジナル鉢への植え付けと演出、実生による増殖、LED ライトによる栽培など、パキポディウムを対象とした話題も多様化しており、グーグルトレンド機能による検索傾向も現在に至るまで顕著な伸びを示している（図）。

自生地の中心はマダガスカルであり全土は熱帯であるが地域によって気候は多様である。例えば南北に長いために気温差があり、中央の山地が風を遮るため西部と東部での乾湿差も生ずる。砂漠化した乾燥地帯、標高の高い比較的冷涼な岩場など、それぞれの厳しい環境に適応して各種が分布している。グラキリウスは乾燥した山岳地帯で砂岩質の断崖、岩山の頂上付近などの硬い地面に自生している。塊茎のシルバーの表皮は強い太陽の光を反射して干ばつから身を守り、またその皮下組織には葉緑体が分布しており落葉期にも光合成が行われるよう適応している。

そのフォルムは柱状に立ち上がるもの、ずんぐりとした塊茎から分頭して枝が生ずるもの、ひたすら塊茎が水平に発達するものなど形態も多様。またトゲの有るものと無い種類もある。著しく肥大化した塊茎から分頭してトゲを有するものとしては、パキポディウム・グラキリウスやパキポディウム・カクチペス（*P. rosulatum* var. *cactipes* 写真４）がよく知られる。カクチペスよりもグラキリウスの方が塊茎が丸く、葉が細い。５～６cm 程度の小さな球体でも数個の枝に発達しているものが流通しており、その整った形態がマニアを惹きつける。太い塊茎部から多数枝分かれしながら株立ちとなるパキポディウム・デンシフローラム（*P. densiflorum*）は、「シバの女王の玉櫛」の和名が与えられ、比較的栽培難易度が高い本属の中では最も栽培しやすい種として知られる（写真５）。枝には太く鋭いトゲを有し、ニチニチソウのように丸い葉も特徴。柱状に垂直に立ち上がり多数の鋭いトゲを有するものとしては、パキポディウム・ラメリー（*P. lamerei*）（写真６）やパキポディウム・ゲアイー（*P. geayi* 写真７）などがよく知られる。ゲアイーの和名は「亜阿相界」であり、小説家でサボテン研究家の龍胆寺雄が命名し、原産地のマダガスカルがアジア（亜細亜）とアフリカ（阿弗利加）の境界であることに由来するとされている。ラメリーに比べて葉が線形であることが特徴。立ち上がらず塊茎が横方向に肥大化していく種としてパキポディウム　ブレビカウレ（*P. brevicaule*）があり、「恵比寿笑い」の和名が与えられている（写真８）。標高1400～2000m の冷涼な地域に産し、直径数センチ程度の小さいサイズの段階から分頭が見られ生姜のように塊茎を成長するが、個体ごとに個性ある形態に成長する点も面白い。

パキポディウムの中でもポピュラーな種類は観葉植物農家で生産されており、とりわけラメリーやその改良品種など大小さまざまなサイズのものが断続的に流通している。比較的希少な種類は、サボテン・多肉植物の生産農家に加え、近年ではビザールプランツ専門農家などを拠点に流通している。年月をかけて作り込まれて極少数流通するものというかつての常識とは異なり、ゴロゴロとした所謂ベアルート苗やその鉢上げしたものがしばしば見られるようになった。その結果、高価格帯ながらマニアの高級趣味に応える程度の流通が確保され、趣味家のもとで発根が成功するかどうか一喜一憂している趣味家の姿が様々な媒体からも散見される。こうした一見喜ばしい園芸趣味の様相ではあるが、それらの多くは輸入されたものであり、海外の生産農家で育成されたものと説明されるケースが多い。しかしもしも塊茎部分に地衣類が付着していたならばほぼ自生地からの盗掘苗である。自生地株の姿形は最高峰の魅力を呈しているが、現地踏査の機会に恵まれたならば撮影に留めなければならない。多くの趣味家は国内増殖苗を用いて自身の栽培環境でいかに魅力的なフォルムに成長させるのか、その探究にのめり込んでいる。一方、より初心者あるいは若年層にとっては高価格帯のパキポディウムは購入のハードルが高い。そうした背景もあって、実生にチャレンジする若手マニアの存在も多く、さらに生産農家も昨今実生苗を流通させている。

盆栽のような時間軸とともに光量を調整しながら給水を抑えつつ硬く寸詰まりに仕立てたり、そうした愛培した株を拘りの鉢に植えて観賞するというパキポディウムの独特の世界観を、自生地を傷つけることなく園芸文化の一つとして育てていくことが重要である。

写真１　肥大した塊茎が人気のパキポディウムの仲間

写真２　パキポディウム・グラキリウス

写真３　グラキリウスを対象としたグッズ

写真４　パキポディウム・カクチペス

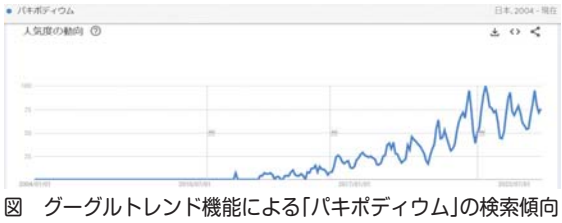


図　グーグルトレンド機能による「パキポディウム」の検索傾向

写真５　パキポディウム・デンシフローラム

写真５　パキポディウム・デンシフローラムの花

写真６　パキポディウム・ラメリー

写真７　パキポディウム・ゲアイー

写真８　パキポディウム・ブレビカウレ

秋の七草考

【萩】はぎ
【薄】すすき
【桔梗】ききょう
【撫子】なでしこ
【藤袴】ふじばかま
【葛】くず
【女郎花】おみなえし

川原田　邦彦
確実園園芸場（茨城県）

芽（はぎ）の花、乎（お）花、葛花、瞿麦（なでしこ）の花、姫部志（おみなえし）、また藤袴、朝貌（あさがお）の花

万葉集で山上憶良が詠んだ七草の歌です。この時代には現代のアサガオは渡来していないので、現在ではキキョウのことであるといわれています。

●芽の花=ハギ〈萩〉（マメ科ハギ属）

ハギは現代でもはっきり分類されていない植物のひとつです。秋の七草ではもっとも広く分布し、よく知られているヤマハギを指すと思われます。ハギは広く日本人に愛され、歌や工芸品に取り入れられてきました。生え芽（はえき）が転じたもので、よく芽をだすことからと秋の季節感とマッチした花ということで「萩」という字が使われています。

ミヤギノハギやシロハギ、サミダレハギ等が良く利用されています。

ヤマハギ

●乎花=ススキ〈薄〉（イネ科ススキ属）

獣の尾に似た花穂の形から尾花（おばな）と呼ばれます。花が咲く様は季節感をそそり、詩歌や絵画に多用されます。花はススキのミミズクを作って楽しんだり、茎葉は屋根を葺くのに用いられてきました。

品種の「たかのはススキ」と生け花等で良く使われます（生け花名・矢羽根ススキ）。庭への植栽はかなり大きな株になり始末に困ることがあるので、株が30cmほどになったら掘り上げて、そのまま地面に置き育てると株の大きさが制限されます。また冬に地上部は枯れますが、その始末はその時点で刈らず、春先に刈ったものです（冬の寒さに傷むため）。現代ではそんなことが忘れ去られてしまっています。

ススキ

●葛花=クズ〈葛〉（マメ科クズ属）

名前は古くからの葛粉の産地、大和の国吉野郡の国栖（くず）に由来します。ツルがよく伸び、絡みつき入ってしまうと枯らすのが困難ですが、根は良質のデンプンを含み、葛粉として、料理や菓子に利用されてきました。漢方では葛根（かっこん）として薬用に利用し、大きな葉は餅やだんごを包むのに利用されるなど生活に密着してきました。また棚として植栽すると、風情がある事や、幹が良く太り風情があります。花が白い品種もあり楽しめます。

クズ

●瞿麦=ナデシコ〈撫子〉（ナデシコ科ナデシコ属）

野原や山地の日だまりに楚々と咲くカワラナデシコ。これは河原に咲くナデシコというところからで、撫子とは子供のように愛らしい花の意味。花は淡紅色で、花弁の先が糸状に裂けた５枚からなっており、白花もあります。また園芸的に作られた濃い赤色の品種があります。宿根草ですがそれほど寿命は長くないので、実生や挿し芽で増やします。江戸時代から知られる伊勢ナデシコは、中国の種セキチクの変種。セキチクはカラナデシコと呼ぶので、カワラナデシコはヤマトナデシコと呼ばれます。また基本種はエゾノカワラナデシコ。

種子には利用作用があり、通経剤になります。

カワラナデシコ

●姫部志=オミナエシ〈女郎花〉（オミナエシ科オミナエシ属）

女性的で頼りなげな風情から、オミナメシ（女飯）と呼ばれたことから名が付いたといわれています。黄色の花が円錐状にの集散花序につきます。高さは１ｍほどになり目立ちます。花には悪臭があります。以前は普通に見られた宿根草でしたが、現在ではほとんど見られなくなりました。園芸的に扱われるものが実生を繰り返してできたもので、６月後半には開花してしまいます。また花が付いた茎は枯死するので、求める場合は株本に何本か花の無い小さな芽があるものを選びます。

根は敗醤という漢方薬として知られ、利尿、解毒に用いられています。

●藤袴=フジバカマ（キク科エウパトリウム属）

この仲間で唯一の中国から奈良時代に渡来した帰化植物。中国では香草として利用され葉を湯に入れたり衣服や髪につけたりされてきました。名前の由来は、さらした藤つるで織った袴をはいた女性が、秋の野原でこの花に変ったという説話からです。

フジガバマ

●朝貌の花=キキョウ〈桔梗〉（キキョウ科キキョウ属）

万葉集の山上憶良の歌にはこの名前は見られません。今のアサガオはこの時代には渡来していなかったので、キキョウのことだといわれています。もともとの基本種は６月～８月に開花しますが、現在大出回るもの、は、早咲きの品種で５～６月に開花するものです。花は総状か頭状花序につき、青紫色を基本として、青、白、ピンク、絞り咲きなどがあります。開花後、強剪定で再び花を見ることができます。

根はキキョウサポニンを含み、去痰作用があります。

キキョウ

これらが秋の七草ですが、現代では、自然界でこれを探すのが困難になっています。残念ではありますが、現代の秋の七草としては、私見ですが、ハギ、ススキ、クズ以外には、ワレモコウ=吾亦紅（バラ科ワレモコウ属）、ミズヒキ=水引（タデ科タデ属）、ホトトギス=不如帰（ユリカホトトギス属）、キツネノカミソリ（ヒガンバナ科属）などでしょうか！いろいろな人の現代の秋の七草も知りたいですね。

お知らせ

2027年国際園芸博覧会の「花・緑出展」第一次内定出展者に

（一社）日本植木協会は、2024年10月１日に、GREEN×EXPO2027（2027年国際園芸博覧会）の「花・緑出展」第一次内定 出展者（223件）として選出されました。「花・緑出展」とは、花と緑のプロフェッショナルが、2027年国際園芸博覧会でしか見られない庭園や花壇、生け花やフラワーアレンジメント、盆栽、新品種・希少種など、多種多様な花・緑の作品を出展し、美と技術の競演を行います。協会からは式典に佐久定規会長が出席しました。

会員動向

社園名・代表者・住所・電話・メールアドレス変更

▷㈱ ㈱緑研　㊧ ㈲熊本植木センター
代表者　佐土原博
担当者　佐土原周二
〒862-0916　熊本県熊本市東区佐土原1-16-37
電話096-367-5577　FAX096-365-1840
E-mail ryoken@fsinet.or.jp

代表者・住所・電話・FAX 変更

▷㈱柏松園（広島県）
㈱ 倉本政信　㊧ 倉本和男
〒731-3362　広島県広島市安佐北区安佐町久地字三国3520-76
電話082-576-7543　FAX082-837-2534

代表者変更

▷㈱ 渡辺智行　㊧ 渡辺庸之助
㈱渡辺吉備園（岡山県）

▷㈱ 海老澤伊器夫　㊧ 海老澤雄一
関東緑水㈱（茨城県）

▷㈱ 田中穂光　㊧ 田中秀穂
㈱ガーデン二賀地（宮城県）

担当者変更

▷㈱ 古賀丈暉　㊧ 古賀隆博
㈲総合緑化コガキュー（福岡県）

メールアドレス変更

▷佐野園（東京都）
㈱ eishin@msd.biglobe.ne.jp

退会

▷㈱東農園（埼玉県）
▷倉見苗園（鳥取県）
▷今村大華園（福岡県）
▷加藤秀香園（埼玉県）

訃　報

▷八木淑子　様（八木峰夫氏の御母堂様）
㈱千代田農園（愛知県）
令和６年９月22日没　享年98歳